

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター春田

作成者: 清水君栄

作成日: 2024年 3月 1日

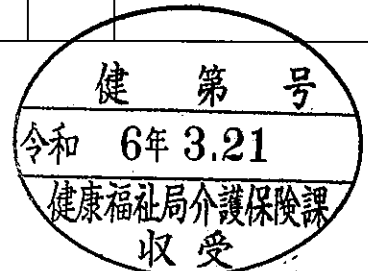
運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	外部 評価	外部 評価
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A	管理者、職員一同、理念に沿って実践している		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	C	コロナの規制もあり、交流があまり持ていない。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C	開催時は現在状況を、お知らせしています意見等もいただいています		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	地域包括支援センターが近所に有り、交流に努めています		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	身体拘束、高齢者虐待と毎月研修を実施している。	A	毎月の研修も実施されており結果も保管している
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A	管理者、職員一同、日頃のケアに気を配り虐待防止に配慮している	A	毎月の研修の中でスタッフへのヒアリングシートの実施も徹底している
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	管理者は、権利擁護と成年後見制度等、学習の機会を持つようしている		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	丁寧かつ分かりやすく、口頭で説明し、書面にて同意を頂いている		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	意見箱を設置し、意見や要望を、聞いている	A	玄関先に意見箱を設置して、外部の声を拾いやすくしている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A	職員にも、運営の状況を話す機会を設けている		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A	就業しやすい環境を整え、やりがいを持って仕事できるようにしている	A	職員にやりがいがあるよう、興味のある研修内容にしている
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を奨励する機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A	新人スタッフが、馴染みやすい環境を作り少しでも早く職場に慣れてくれるように、配慮している。	A	研修が低く、スタッフが定着している。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	コロナ継続中で、外部との交流は再開されていない		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A	他の利用者様との、交流もしやすいように配慮している		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	本人の今までの、生活で大切にしてきたものの継続		



# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター春田

作成者: 清水君栄

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	外部評価	記述
II その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	ご利用者様の生活歴を把握して、思いや希望を受け止めるようにしている		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	3か月ごとにカンファレンスを行い、ご本人の希望、思いをくみ取るようにしている	A	計画作成に伴いカンファレンスの実施をしている
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	毎日の申し送り、記録を明確にして、情報共有している	A	日々の記録もしっかりしている
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A	各個人の要望、希望に沿ったケアを実践していく		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	コロナ継続にて地域に出かけることがむづかしい。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	内科、眼科、歯科ともに、連携が取れており緊急時の対応もある		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	提携医と救急病院との連携もとれている	A	主治医との連携及び近隣の病院との連携も行われている
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	重度化、看取りも、家族と十分に話し合いが実施してある	A	主治医との連携のもと、看取りも行われている
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A	緊急対応の方法もスタッフの常に話し合いされている		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A	スプリンクラー設備、避難訓練も、年2回実施している	A	年2回夜間を想定した訓練を実施している

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター春田

作成者: 清水君栄

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	外部評価 結果	注
III その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	ご利用者一人ひとりの言葉に耳を傾け思いを尊重していく	A	職員がいつもより高める環境にある
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A	業務優先にならず、各個人に合わせた暮らしのペースでその人らしく生活している		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A	ご利用者様のご希望を聞きながら、食べたいものを提供している	A	メニューの設定もなく、自由に食事を提供している
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	ご利用者様の栄養価を、把握して、補助食品の提供等している		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	食事前の嚥下体操、食後の口腔ケアにて清潔を保つようにしている	A	歯科医の訪問も各個人に合わせてある
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	時間ごとに声掛けし、尿意喪失されているかたにも、トイレでの排尿を心掛けている	A	それぞれの排泄リズムの把握をしている
32	入浴を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A	ご利用者様の希望に出来る限り、浴つ入浴できるようにしている		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	居室が安眠できるような、環境を整えている		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	スタッフのダブル確認で、ミス無くして安心して服薬して頂いている	A	それぞれの服薬の状況を把握している
35	役割、楽しみごととの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A	日常生活で笑顔が溢れ、趣味や嗜好を鑑みて、生活している		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A	ご利用者様の希望にそって、外出するよう配慮している		
37	お金の所持や使うこととの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A	ご利用者様のお小遣いが、有り、いつでも買い物に行けるようにしてある		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A	希望があれば、いつでも、電話、及びオンラインで家族との連絡が取ることができる		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	季節に合わせた装飾品をご利用者様とかがざりつけを楽しんでいる	A	明るいリビングには季節ごとの飾りつけがされている

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター春田

作成者: 清水君栄

作成日: 2024年 3月 1日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 1月 26日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A	共有スペースでは、日当たりが良い、リビングや、和室でくつろげるようにしてある		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができます	A	ご本人の生活歴の聞き取りを、しっかりとご本人の望む生活に慣れるようにする		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができます	A	医療は往診医と連携して、体調管理の徹底スタッフは、栄養、排便、睡眠等、生活の管理をする	A	健康管理の徹底がなされている
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A	ご本人の生活習慣を、前すことなくホームでの生活を、充実したものにします		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができます	A	各個人の居室には、愛用品等が持込可で安心して生活されている	A	居室には希望の家具等持ち込み可になっている
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができます	A	外出もご本人の希望にそい、散歩、買い物喫茶と充実している		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができます	A	ご本人の自尊心を傷つけることなく、出来ることを、楽しみながら行ってもらう		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場を日々の暮らしの中で得ることができます	A	いつも、笑顔に溢れ、誰とも会話できる環境を整えることで、生きる活力となる	A	何時でも声の届くところに職員がいる
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができます	A	近隣の散歩などでは、近所の方との、会話を楽しんでいる		
49	総合	本人は、このGHにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができます	A	不安なく、安心した生活が出来るように、職員一同、一生懸命にサポートしている。	A	GHでの生活が不安なく行われている

総評

色々な場面で、事業者の特性を生かした対応をしている。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

コロナも緩和されつつあるが、まだまだ、規制の中にある。通常の日常が戻る日が待たれる。

参加者サイン欄

中川区西部いきいき支援センター 分室 古内里美  
橋本敏夫

# 帳票D

事業所名 ニチイケアセンター春田

作成日: 令和 6 年 3 月 1日

作成者: 清水 君栄

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	24	急変や事故発生時の備え	お客様の急変時の対応、臨機応変に、優先順位を付け、判断能力を身に着ける。	急変の種類、その時々への対応シミュレーション等訓練する。	6ヶ月
2	36	日常的な外出支援	感染症対策も講じつつ、遠足など、具体的に実行していく。	ご家族様に了承をもらう。立案する。計画して、実行していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。